

# 市民意見募集(パブリックコメント)結果

「和歌山市水道ビジョン 2024 (素案) に対する市民意見募集について」に対するご意見を募集した結果、111 件のご意見をいただきましたので、次のとおり公表します。

## ■募集案件の概要

募集案件	和歌山市水道ビジョン 2024 (素案) について
受付期間	令和 5 年 1 2 月 2 5 日～令和 6 年 1 月 3 1 日
ご意見の件数	110 名・111 件

## ■ご意見の概要と市の考え方

項目	No	ご意見の概要	市の考え方
施策 1 水道施設の適切な維持管理の推進に関する意見	1	施策 1 の提言として、予防保全は、事後保全に比べ費用は抑制できるが、現行施設の老朽度は高く、3 条予算は大きく膨らむ可能性がある。専門業者に任せるだけでなく、職員の技術力向上と継続も同時にはじめるべき。	職員の技術力向上や継承につきましては、ベテラン職員の知識・技術を継承する OJT や職員による内部研修を実施するとともに、より高い技術力を取り入れるため外部研修にも積極的に職員を派遣しています。今後も、公民連携しながら、水道施設を適切に維持管理していきたいと考えます。
施策 3 適切な水質管理体制の維持に関する意見	2	「水道 GLP に準拠した体制」とあるが、日本水道協会 HP の水道 GLP 認定水質検査機関リストによれば和歌山市は認定されていない。市民の誤解を招く表現は慎むべきではないか。	ご意見のとおり、本市企業局は水道 GLP の認定は受けておりませんが、マニュアルの作成や記録の保存等、水道 GLP に定められたルールに従って検査を実施しております。それらを水道 GLP に準拠と示したものです。
施策 6 鉛製給水管の解消に関する意見	3	安心・安全な水道は常に恒久的に提供されるべきである。特に古い鉛製給水管はできるだけ早く解消すべきである。	鉛製給水管については、計画的に年間 400 栓の改善に努めるとともに、漏水の修繕や配水管の布設替工事に併せた改善も行い、残存する鉛製給水管の解消に取り組んでいきます。

<p>施策 7 浄水場・配水池の老朽化・耐震対策に関する意見</p>	<p>4</p>	<p>問題だと感じるのは実施速度の遅さで、人口減などが確実な中、更新期を迎えている施設が多く、先送りすれば実施が困難になる。更新・耐震化の早期化が二次災害の低減と復興コストの削減につながると思われる。</p> <p>①事故が起こってから更新するよりも事故が起こる前に更新した方が大幅にコスト安 ②小規模な工事を断続的に繰り返すより計画的に大規模に工事した方がコスト安</p>	<p>和歌山市の基幹浄水場である加納浄水場については、現在も老朽化対策や耐震化及び施設能力の増量を目的に更新を進めているところです。</p> <p>限られた敷地内において、運転を継続しながらの施設更新を行っており、新しい施設を構築した後に旧施設の撤去を行うことを繰り返すため、更新完了まで長い期間を要します。</p> <p>浄水施設の耐震化率については、震災時においても安定的に浄水処理を行うために、着水井から浄水池までの管路や施設などを含む、浄水施設一体としての耐震性を示すもので、被災時においても安定した浄水処理が確保できるかどうかを表しています。</p> <p>そのため、加納浄水場の更新が完了するまでは変動しません。加納浄水場の更新については、計画に遅れが生じないよう令和 20 年度の完成を目指して事業を進めていきます。</p> <p>一次配水池については、令和 7 年度より劣化状況や耐震性能の有無についての診断を行ったのちに、更新・補強計画を策定する予定となっています。</p> <p>そのため、現時点での事業の完了年度は未定ではありますが、適切に計画を策定し、地震等の災害時にも水道水の貯留・配水機能を損なわないよう事業を進めていきます。</p>
		<p>加納浄水場の耐震化と更新の位置づけ範囲は？二重投資では？更新用地確保しているなら、耐震化と老朽更新を併せて実施できないのか？液状化対策は？</p>	
		<p>強靱な水道、これも早急に取り組むべき 3 年前の六十谷の水管橋崩落のような事故は二度と会ってはならない。南海トラフ地震が近い将来予想される中、地震が来ても壊れないものを作るべき。</p>	
		<p>加納浄水場耐震化率令和 4 年 0.02%。10 年後の令和 15 年度でもかわらず 0.02%のまま。耐震化 100%完了は、令和 20 年までの 5 年間で達成。令和 4 年から 15 年まで工事無し？完成まで、工期が長すぎるのでは？</p>	

<p>施策 7 浄水場・配水池の老朽化・耐震対策に関する意見</p>	<p>4</p>	<p>複線化される送水管の完成は令和 9 年なのに、肝心の水道水を溜めておく配水池の耐震化完成も令和 20 年くらいだとすると遅すぎる。</p> <p>なぜ 2 カ所の浄水場の完成が、揃って令和 20 年では、地震が来たら、耐震化されない配水池や管路は壊滅的被害が起きるのではないかと？</p> <p>複線化送水管は地震に強いものを想定しているから、加納浄水場に集中して計画より早く完成させ、同時進行で配水池の耐震化と送水管・基幹管路の耐震化を終えてから、北部浄水場建設に取り組んでほしい。</p> <p>市や県や和歌山大学の協力を得て東南海地震の影響に限らず、中央構造線の影響を考慮すべきだ。</p>	<p>和歌山市の基幹浄水場である加納浄水場については、現在も老朽化対策や耐震化及び施設能力の増量を目的に更新を進めているところです。</p> <p>限られた敷地内において、運転を継続しながらの施設更新を行っており、新しい施設を構築した後に旧施設の撤去を行うことを繰り返すため、更新完了まで長い期間を要します。</p> <p>浄水施設の耐震化率については、震災時においても安定的に浄水処理を行うために、着水井から浄水池までの管路や施設などを含む、浄水施設一体としての耐震性を示すもので、被災時においても安定した浄水処理が確保できるかどうかを表しています。</p> <p>そのため、加納浄水場の更新が完了するまでは変動しません。加納浄水場の更新については、計画に遅れが生じないよう令和 20 年度の完成を目指して事業を進めていきます。</p> <p>一次配水池については、令和 7 年度より劣化状況や耐震性能の有無についての診断を行ったのちに、更新・補強計画を策定する予定となっています。</p> <p>そのため、現時点での事業の完了年度は未定ですが、適切に計画を策定し、地震等の災害時にも水道水の貯留・配水機能を損なわないよう事業を進めていきます。</p>
	<p>5</p>	<p>加納浄水場 1 カ所に浄水能力を集中させるのは北部新浄水場を新設するとはいえ問題では。危険分散、リダンダンシーからも、加納浄水場の施設能力増量更新後、出島浄水場の老朽対策、耐震化を実施出来ないかと？</p> <p>施設能力の増量 (153,000 m<sup>3</sup>/日) となっているが、閉鎖する出島浄水場の能力を確保するためと記載されている。であるなら、121,000 m<sup>3</sup>/日 + 50,000 m<sup>3</sup>/日 = 171,000 m<sup>3</sup>/日では？</p>	<p>出島浄水場は施設の老朽化が激しく、耐震性も乏しい状況にありますが、用地不足により浄水場を稼働しながらの施設整備ができません。将来加納浄水場で和歌山市の水需要が賄えるようになった時点で廃止するものと位置付けていました。</p> <p>加納浄水場の施設能力は、現在廃止した真砂浄水場の施設能力分を増量した水量 (153,000 m<sup>3</sup>/日) となります。</p> <p>本ビジョンでは、新たに北部新浄水場を建設し災害時や想定外の事態に備えた、リスクの低減化を図る計画としています。</p>
	<p>6</p>	<p>今後配水池の耐震化に取り組む際に新たに応急給水拠点を広く市民に知らせる必要がある。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。今後の水道事業の参考とさせていただきます。</p>

<p><b>施策 9</b></p> <p>基幹管路・配水支管の老朽化・耐震対策に関する意見</p>	7	<p>100年以上の長寿命が期待できるGX形ダクタイル鋳鉄管100年の根拠は？過去の大震災時の断水の状況に、耐え得ると判断しているのか？検証はしているのか？</p>	<p>日本ダクタイル鉄管協会によると、GX形は耐食皮膜の寿命が70年以上、鉄部の寿命が30年以上とされており、長期の寿命が期待できるよう防食設計されています。これらは、全国約3000地点での腐食に関する調査データや実験室における促進試験結果をもとに推定された結果です。</p>
		<p>今後の基幹管路と病院等の重要給水施設、緊急重要道路下の配管の耐震管化に向けて、単に掘削、耐震管布設、埋め戻しではなくピット化し、ピットの蓋を開けるとにより、点検、漏水時の漏水箇所調査、修理の作業性向上が可能となり、早期復旧に繋がられないか。ピット化は各戸入り口までの配水支管までが望ましいが、難しいか？</p>	<p>貴重なご意見として承ります。 今後の水道事業の参考とさせていただきます。</p>
		<p>県内の水道業者には災害対策のためにも管路の耐震化を頑張ってもらいたい。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。 今後の水道事業の参考とさせていただきます。</p>
<p><b>施策 10</b></p> <p>紀の川横断部の送水管の複線化</p> <p><b>施策 11</b></p> <p>北部新浄水場の建設</p> <p>に関する意見</p>	8	<p>北部新浄水場の建設につきましても、南海トラフ巨大地震を想定したリダンダンシーのために建設するのであれば、もっと早い着手を望みたい。</p>	<p>企業局としましては、北部地域の安定供給を早期に実現するため、まずは、送水管の複線化について取り組んでおり、令和5年度の完成を目指します。</p> <p>その後、北部新浄水場を建設し、加納浄水場と2つの浄水場を運用することで、想定外の事態に対してリスクの低減を図り、万一の被害を最小限に抑える必要があると考えます。</p> <p>紀の川からの取水や送水管の布設状況も鑑み、建設用地を検討した結果、工業用水道である六十谷浄水場を活用し、一部施設の共用による建設計画を推進します。</p> <p>新浄水場の事業着手については、六十谷浄水場の用地や一部施設を供用することから、工水更新事業の進捗に関係するため、直ちに工事着手できるものではありません。</p> <p>そのため、新浄水場に関する工事着手が可能な時期から逆算したうえで、基本設計等に着手していく予定としています。</p> <p>新浄水場の規模については、北部地域の日常使用量の60%、予備能力を使用すれば77%、市内全域の日常の使用量の約1/3を賄える規模である28,000 m<sup>3</sup>/日とし、さらに、工業用水道である六十谷浄水場を活用することで、建設コストを軽減できました。</p> <p>万一のトラブルにより、加納浄水場からの給水が途絶えても、減圧給水とともに節水をお願いすることにより、日常生活が可能な規模と考えています。</p> <p>これにより、水道管路や配水池等の老朽化・耐震対策に関する投資を手厚くし、紀の川を挟んだ2つの浄水場とともに、水道施設全体で自然災害に備えたいと考えます。</p> <p>現在進めている紀の川横断部の送水管の複線化については、南海トラフ地震に対応できるよう設計を進めています。トンネル工法は橋梁式に比べて、地震に対する影響は少ないと言われてしています。</p>

<p>施策 10 紀の川横断部の送水管の複線化</p> <p>施策 11 北部新浄水場の建設</p> <p>に関する意見</p>	8	<p>令和 4 年 10 月のパブコメで、北部新浄水場の施設能力は 47,000 m<sup>3</sup>/日と規模が大きく、送水管の複線化の意義は乏しく、建設用地の確保は非常に困難でしたが、新ビジョンでは北部新浄水場の施設能力は 28,000 m<sup>3</sup>/日にダウンされており、送水管の複線化の意義が向上し、六十谷浄水場が活用でき、建設の実現が困難ではなくなり、コストダウンが可能となることに関し、高く評価しています。北部地域への安定給水のため、送水管の複線化+北部新浄水場を早期に建設していただきたい。</p>	<p>企業局としましては、北部地域の安定供給を早期に実現するため、まずは、送水管の複線化について取り組んでおり、令和 5 年度の完成を目指します。</p> <p>その後、北部新浄水場を建設し、加納浄水場と 2 つの浄水場を運用することで、想定外の事態に対してリスクの低減を図り、万一の被害を最小限に抑える必要があると考えます。</p>
		<p>北部新浄水場の建設の時期について、加納浄水場完成と合わせる必要はない。紀の川横断送水管実施設計が終わった段階で、(整合性を取る意味でも) 北部新浄水場実施設計に着手してはどうか。</p> <p>北部新浄水場の建設用地である六十谷浄水場における問題点として、六十谷浄水場更新工事と進捗調整が来ているか不安である</p>	<p>紀の川からの取水や送水管の布設状況も鑑み、建設用地を検討した結果、工業用水道である六十谷浄水場を活用し、一部施設の共用による建設計画を推進します。</p> <p>新浄水場の事業着手については、六十谷浄水場の用地や一部施設を供用することから、工水更新事業の進捗に関係するため、直ちに工事着手できるものではありません。</p> <p>そのため、新浄水場に関する工事着手が可能な時期から逆算したうえで、基本設計等に着手していく予定としています。</p>
		<p>紀の川横断部送水管複線化について実施設計推進中とあるが、その内容は？埋設と聞いているが、能登半島地震では大規模な断水が発生している。それに耐え得るのか？</p> <p>北部新浄水場が完成すれば、既設六十谷水管橋が、系統連絡管に相当し、厚労省の指針に合致する。つまり複線化は不要となる。強いて言うなら、北部新浄水場完成までの繋ぎに、管理の出来ない埋設管投資 25 億円の複線化をするという結果になる。既設六十谷水管橋 900mm 1 本でも、北部への送水能力は十分であり、既設六十谷水管橋の大部分は新たに更新出来たので、北部新浄水場完成までは十分耐え得ると思う。</p> <p>北部新浄水場の計画について、設計着手令和 10 年からとなっている。令和 5 年から開始していると思っていた。早期北部新浄水場実現に向け何故早く取り組まないのか。複線化と同時並行で進められないか。</p> <p>給水能力を 28,000m<sup>3</sup>/日と必要水量の 2/3 に留めているが、加納浄水場の負荷を軽くするためにも。なぜ 100%能力の 48,000m<sup>3</sup>/日としないのか。</p>	<p>新浄水場の規模については、北部地域の日常使用量の 60%、予備能力を使用すれば 77%、市内全域の日常の使用量の約 1/3 を賄える規模である 28,000 m<sup>3</sup>/日とし、さらに、工業用水道である六十谷浄水場を活用することで、建設コストを軽減できました。</p> <p>万一のトラブルにより、加納浄水場からの給水が途絶えても、減圧給水とともに節水をお願いすることにより、日常生活が可能な規模と考えています。</p> <p>これにより、水道管路や配水池等の老朽化・耐震対策に関する投資を手厚くし、紀の川を挟んだ 2 つの浄水場とともに、水道施設全体で自然災害に備えたいと考えます。</p> <p>現在進めている紀の川横断部の送水管の複線化については、南海トラフ地震に対応できるよう設計を進めています。トンネル工法は橋梁式に比べて、地震に対する影響は少ないと言われています。</p>

<p>施策 10 紀の川横断部の送水管の複線化</p> <p>施策 11 北部新浄水場の建設</p> <p>に関する意見</p>	8	<p>川をはさんだ真対面に浄水場増やただけで、リダンダンシーが確保できるとは思えない。中央構造線でも南海トラフでも台風でも現行の浄水場とほぼ同等の被害を受けるのではないかと。新浄水場は最大でも市内全域の 1/3 しか賄えないということで、川を渡る送水管が落ちて大丈夫なためだけに建てるものとは思えない。</p>	
		<p>現状の土地面積ありきの設定である施設規模 28,000 m<sup>3</sup>/日の計画は、中途半端な規模でコストばかりかかる愚策であり強く反対する。物理的に減圧給水が可能であるのか、使用量が偏り濁水に繋がらないか、加納浄水場又は送水管が破損した場合を想定すると少なくとも数か月～年単位の継続が見込まれるが、予備能力全てを使用継続できるものなのか、そもそも最大能力が平均使用量の 77% の状態で水質悪化時や使用量の増える夏場を含め日常生活が成り立つ給水ができるのか、などの疑問点を解消する根拠を示していただきたい。</p> <p>「新浄水場は、非常時には市内全域の日常の使用量の約 1/3 を賄える浄水能力を有しており」とあるが、現状の市内全体送水量約 140,000 m<sup>3</sup>/日から見れば予備能力を活用しても 26% 程度であり、「約 1/4」と記載すべきではないかと。示していただきたい。</p> <p>再度北部浄水場の必要性を検討し、必要と考える場合もその規模 需要の 100%以上、原水の種類、浄水場や取水施設の位置、処理方法等 を検討し、安全性や水質は確保しつつ初期・運転コストを可能な限り抑えるよう多面的な再考を求めます。</p>	<p>企業局としましては、北部地域の安定供給を早期に実現するため、まずは、送水管の複線化について取り組んでおり、令和 5 年度の完成を目指します。</p> <p>その後、北部新浄水場を建設し、加納浄水場と 2 つの浄水場を運用することで、想定外の事態に対してリスクの低減を図り、万一の被害を最小限に抑える必要があると考えます。</p> <p>紀の川からの取水や送水管の布設状況も鑑み、建設用地を検討した結果、工業用水道である六十谷浄水場を活用し、一部施設の共用による建設計画を推進します。</p> <p>新浄水場の事業着手については、六十谷浄水場の用地や一部施設を供用することから、工水更新事業の進捗に関係するため、直ちに工事着手できるものではありません。</p> <p>そのため、新浄水場に関する工事着手が可能な時期から逆算したうえで、基本設計等に着手していく予定としています。</p> <p>新浄水場の規模については、北部地域の日常使用量の 60%、予備能力を使用すれば 77%、市内全域の日常の使用量の約 1/3 を賄える規模である 28,000 m<sup>3</sup>/日とし、さらに、工業用水道である六十谷浄水場を活用することで、建設コストを軽減できました。</p> <p>万一のトラブルにより、加納浄水場からの給水が途絶えても、減圧給水とともに節水をお願いすることにより、日常生活が可能な規模と考えています。</p> <p>これにより、水道管路や配水池等の老朽化・耐震対策に関する投資を手厚くし、紀の川を挟んだ 2 つの浄水場とともに、水道施設全体で自然災害に備えたいと考えます。</p> <p>現在進めている紀の川横断部の送水管の複線化については、南海トラフ地震に対応できるよう設計を進めています。トンネル工法は橋梁式に比べて、地震に対する影響は少ないと言われております。</p>
		<p>前回の六十谷水道橋の崩落を受けてのパブリックコメントでは、北部への送水管の複線化かそれとも北部にも城水場を建設するかを選ぶ、となっていたように記憶しているが、今回のビジョンでは両方を目指すとなっている。安定的な供給のためには正解とは思いますが、そう決定した議論の経過がよくわからない。</p>	

<p>施策 10 紀の川横断部の送水管の複線化</p> <p>施策 11 北部新浄水場の建設</p> <p>に関する意見</p>	<p>9</p>	<p>「紀の川横断部の送水管の複線化」と「北部新浄水場の建設」に反対する。崩落した水管橋の補強材の塗替え不適切や、吊り材破断の処置をしていなかったのは人為的なミスである。</p> <p>南海トラフ巨大地震に対する六十谷水管橋の強度が不足しているのなら、補強すればいいと考える。</p> <p>人口減少が進む中で更なる設備が増えると維持管理の人材や費用が増えるだけである。老朽化した配管の更新費用に回した方が得策だと考える。</p>	<p>六十谷水管橋については、令和5年度より耐震劣化診断を実施しており、今後耐震対策を行っていきます。</p>
	<p>10</p>	<p>運営経費低減のためには、維持管理費が低い緩速濾過方式の復活を是非検討いただきたい。人口減少などに伴って水需要が減るなら、施設更新あるいは新浄水場の建設の際に、かつての真砂浄水場のような緩速濾過方式にすることはできないか？この方式による必要な敷地面積の増加は、水需要の減少により抑えられないか？水質が非常に良くなる事については、専門家の皆様には常識である。</p> <p>水道水がおいしくなれば、飲料水購入する必要がなくなり（或いは減り）、家計負担も減るので、水道料金値上げを若干は緩和できるかと思う。ただし、もともと水購入できない経済状況の家庭には当てはまらず、ここには何らかの手立てが必要となるでしょう。</p> <p>複線化及び新浄水場建設は必要だが、値上げは低く抑えるべきだ。</p> <p>設備費・人件費のための値上げはいたしかたない。紀の川より北にも貯水池や浄水池をつくってほしい。</p> <p>強靱な水道、これも早急に取り組むべき3年前の六十谷の水管橋崩落のような事故は二度とあってはならない。南海トラフ地震が近い将来予想される中、地震が来ても壊れないものを作るべき。</p> <p>過大な浄水能力を持つことには賛同しないが、必要と考えられる物は整備して、料金改定は適正な料金であることの明示をお願いしたい。</p> <p>新しい浄水場は至急必要。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。今後の水道事業の参考とさせていただきます。</p>

<p><b>施策 13</b> 給水申込み等の簡素化と収納方法の多様化に関する意見</p>	<p>11</p>	<p>使用開始・中止等の届け出は未だに電話書面とのことですが、早急にネットで可能にすることにより、担当人件費の節減になる。同時に市民の利便性向上にも寄与する。</p> <p>「和歌山市水道料金センター」の開設は市民の利便性向上が目的であったと思うが、これを運営するために人件費をはじめ多額の費用が発生していると思う。ネットで対応できるようにすることでこの窓口は不要となる。ネット対応できない市民に対しては和歌山市には各地に支所が有るためそこで対応を行うべき。</p>	<p>令和5年度から和歌山市のホームページより、水道の使用開始・中止等のオンライン手続きができるようになりました。</p> <p>和歌山市水道料金センターについては、ホームページをご利用できない方など、多様な対応が必要となりますので、引き続き設置していきたいと考えています。</p>
<p><b>施策 14</b> 広報活動の充実に関する意見</p>	<p>12</p>	<p>広報誌「水道だより」についてもインターネットが発達した時代、同じ内容をホームページに掲載すれば済むことであり、ネット対応できない市民に対しては「市報わかやま」に掲載で事足りると思う。</p>	<p>広報誌「水道だより」は、年に一度、お客様に幅広くお知らせするため、紙媒体での発行に加え、市のホームページに掲載してご覧いただいております。</p> <p>水道事業について掲載すべき記事を精査して発行しており、今後も「市報わかやま」とは別に「水道だより」という形で、水道に特化した内容をわかりやすくお伝えしたいと考えています。</p>
<p><b>施策 16</b> 料金制度の適正化及び定期的な検証に関する意見</p>	<p>13</p>	<p>水道料金の値上にもともなう軋轢については、全国的な相場を考えると値上げ後でも適正値だと思われる。長く価格を据え置きしてきた反動が出ているものと思料する。客観的に納得できる比較資料を提示することが最も市民は理解しやすいと思う。</p> <p>水道料金の値上げは時世を考えれば仕方ないかと思うが、世帯の人数に応じた単価設定をお願いしたい。電気なら当たり前使用前に使用量に合ったプランを選べる。なるべく節約していても、子どもの多い世帯は水を使う機会はどうしても多くなる。</p> <p>水道料金値上げ検討前にやるべきことは人口減少に対する職員をへらし、給与水準の見直しを徹底したコストカット。その上での水道議論であり順番が逆である。他の自治体よりも和歌山市の水道料金は高い。</p>	<p>和歌山市水道ビジョン 2024 の「今後の投資と財政計画」では本ビジョンに掲げる強靱化などの施策を推進した場合の水道料金への影響についてお示しています。</p> <p>企業局としては、今後も水道料金の適正化と定期的な検証に取り組んでいきます。</p>



<p>施策 16</p> <p>料金制度の適正化及び定期的な検証に関する意見</p>	<p>13</p>	<p>水道料金の値上げは大反対です。私達の生活をこれ以上、苦しめないでほしい。</p>	<p>和歌山市水道ビジョン 2024 の「今後の投資と財政計画」では本ビジョンに掲げる強靱化などの施策を推進した場合の水道料金への影響についてお示しています。</p> <p>企業局としては、今後も水道料金の適正化と定期的な検証に取り組んでいきます。</p>
		<p>人口が減少し、コストが今より割高になろうとも、料金負担はやむをえないものであろうと思う。ただ、それはコストが適正である場合。私は北部新浄水場建設（2022 年パブコメ）には慎重で、賛成しなかった。この建設により水道料金の値上げ幅が一層上がることは確実です。その値上げを緩和するために官民連携、いわゆる民営化を検討するとして強く反対する。</p>	
		<p>水道は命の水で値上げで解決しないでほしい。</p>	
		<p>設備費・人件費のための値上げはいたしかたない。</p>	
		<p>水道料金の値上げは正当な理由なら納得する。ただし料金の決め方には弱者への配慮が必要。</p>	
		<p>水道料金の値上げはやむを得ないが、資材や備品等は適正価格で購入してほしい。</p>	
		<p>過大な浄水能力を持つことには賛同しないが、必要と考えられる物は整備して、料金改定は適正な料金であることの明示をお願いしたい。</p>	
		<p>現在、我々は北陸・能登半島の厳しい断水状況を見て、水がいかに重要かを改めて思い知り、明日は我が身と憂えている。その危機回避のためなら、水道料金の値上げをある程度は容認できるのではないかと。ただし、一人親、生活保護、低所得などの世帯、大量の上水が必要な銭湯や、小規模の飲食業等々、必要などころに向けては、何らかの負担軽減策が必要だと思う。</p>	

<p>施策 17 外部資金を活用した建設資金の確保に関する意見</p>	<p>14</p>	<p>財源問題が大きい課題です。一般財政からの補填、有休施設の売却、国への補助金要求だと思ふ。</p> <p>能登半島大地震に見るように水道というのはライフラインとしては最も上位に来るもの。今後、これらの事業を進めていくために、また、今ある施設の更新や老朽水道管の交換など、多額の費用が必要となる。水道事業は独立採算制であるのでいずれ水道料金に反映されることになると思うが、減免措置の拡充とともに一般財源からの予算獲得が必要。命の水です。不要不急の「箱もの」に使うより、水道事業に回すべき。</p> <p>イニシャルコスト的観点からは、浄水場、記水池、そして給水管の更新に待たはたない。特に管路の更新率は中核市平均を大きく下回っている。この額を企業債で賄ってきたようだが、この企業債は形として誰が引受けているのか。「ビジョン 2024」には詳細は記載されていない。水道事業が基本的に独立採算をうたうのであればこの問題にもメスを入れる必要が有ると思う。</p> <p>点検作業や細かい改修工事を含め新設設備を計画するときは公正な入札制度での適切な価格での発注が必須である。</p> <p>国や県から必要な補助をどれだけいただけるのかという事も大切なポイントとなると思う。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。 今後の水道事業の参考とさせていただきます。</p>
<p>施策 18 土地の有効活用に関する意見</p>	<p>15</p>	<p>真砂浄水場はじめ設備を閉鎖した跡地の売却等を積極的に行っていく必要が有ると思う。土地売却益がどの程度出るのかは分からない、市内でも一等地であり虎の子の資産でもある。このほかにも遊休資産の売却はできると思うが、公明正大な手続きにより適正に対処されなければならない。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。 今後の水道事業の参考とさせていただきます。</p>

<p>施策 19</p> <p>広域連携等による効率的な事業の検討に関する意見</p>	<p>16</p>	<p>「広域化」のメリットが語られる反面、デメリットが出されていない。ぜひメリットだけでなくデメリットについても触れてほしいと思う。またこの広域化が民営化につながる懸念もあり、外国の例やすでに民営化した国内の自治体ではいろいろな問題も出ている。また、このような生活に直接かかわるインフラ問題について市民に知らせる努力をお願いしたいと思う。</p>	<p>広域化については、国や県が、経営基盤の強化として推奨しています。</p> <p>企業局としても調査・研究は行ないませんが、経営の一体化などは将来的なものであり、まずは、緊急時連絡管などの発展的な広域連携の検討を進めます。</p> <p>民営化について、水道事業にはコンセッション方式というものがあります。しかし、これは民営化ではなく、水道事業者は自治体であり、水道水の供給責任も自治体にあるなかで、事業運営を民間が行うものです。現在、水道事業では宮城県でのみ行われています。</p> <p>なお、本ビジョンとしては、コンセッション方式を目指しているものではなく、今までと変わることなく、企業局が主体性を持ちつつ、民間の技術力なども活用した効率的な事業運営に取り組みます。</p>
		<p>民営（企業化）ということは利益を追求することか優先され、利用者（市民）の利益は後回しとなる。</p> <p>奈良市、葛城市では不参加を選択している。海外（フランスなど）では、公営化に戻している例がいくつもある。</p>	
		<p>水道の広域化には、民営化が見えみえなので絶対に反対。世界的に見れば、水道民営化は失敗している国がたくさんある。</p>	
		<p>◆水道広域化の検討に反対する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山県は、広域化の責任は各自自治体にあると言っている。</li> <li>・広域化の決定は議会の議決は必要でなく、市長が行う。</li> <li>・奈良県は、奈良市長と葛城市長が広域化に参加しないと決めた。</li> </ul>	
		<p>心配するのは民営化。利益追求の民間資本の導入には反対。研究されていると思うが EU では民営化された水道事業が又公共に戻っている動きが広がっている。民営化で公共が削られてきている日本でも、生活を守る「公共」が注視されている。</p>	
<p>「官民連携における水道事業の様々な手法について調査や研究」については、利益を追求する民間企業の参入は不安。利益を上げるために事業内容のレベルを下げたり、経営が立ち行かなくなったときに無責任な対応になったりすることを心配する。市民の生活になくてはならない事業なので、公立公営で引き続き進めていただきたい。</p>			

<p>施策 19 広域連携等による効率的な事業の検討に関する意見</p>	<p>16</p>	<p>理想像 1.安心・安全、3.持続可能 のためには、水道事業は、施設も運営も公が責任を負って行うべきだと考える。民間企業は利益をあげ、資本増大させねばならず、これは水道事業の性格とは相いれない。廃業や倒産の危険もある。民営化の理由として、“運営の効率化”のため、とよく言われるが、具体的に何が非効率なのかを具体的に明らかにしたうえで、研修などを通じて運営のノウハウだけ民間から学べばよいはず（官民連携を推奨している訳では決してない）。</p>	<p>広域化については、国や県が、経営基盤の強化として推奨しています。 企業局としても調査・研究は行ないませんが、経営の一体化などは将来的なものであり、まずは、緊急時連絡管などの発展的な広域連携の検討を進めます。 民営化について、水道事業にはコンセッション方式というものがあります。しかし、これは民営化ではなく、水道事業者は自治体であり、水道水の供給責任も自治体にあるなかで、事業運営を民間が行うものです。現在、水道事業では宮城県でのみ行われています。 なお、本ビジョンとしては、コンセッション方式を目指しているものではなく、今までと変わることなく、企業局が主体性を持ちつつ、民間の技術力なども活用した効率的な事業運営に取り組みます。</p>
		<p>水道を広域化するという事は、市の事業に携わる人員が削減、規模が拡大することにより私企業が関わって大きな利潤を生み出すことでもあるため、民営化する格好の口実を提供することになる。 当初は水道料金が安くなってもいずれその状況が逆転し、コスト低下等から水道自体の質の低下が起きる。 水管橋崩落のような事故を起こさないためにも、市独自の事業として管理体制も充実すべきである。</p>	
		<p>広域化から民営化になった前例があるし、簡単に手放してはいけないと思う。 この問題を大々的にテレビなどで取り上げて市民に知ってもらい、もう一度検討してほしい。</p>	
		<p>広域化になれば将来民営化になるかも知れない。メリットも有ると思考えられるデメリットもあると思うので私は広域化には反対。</p>	
		<p>和歌山市における水道事業の現状並びに将来への問題点については理解できたが、広域化の検討については非常に懸念が多いものと思料する。 ① そもそも住民の声は県議会ですら届きにくいのに、「企業団」となれば全くと言っていい程住民の意見は反映されなくなってしまう ② 「広域化」はあくまで「民営化」への道程ではないのかという多大なる不信感 ③ そもそも良質な水源が確保できている本市に広域化は不要であり、また規模が小さい程コストも掛からないのではないのか ④ 広域化による人員の削減や配置転換等により現場を熟知する者がいなくなり、緊急・災害時の対応に問題が生じる可能性が高くなる</p>	

<p>施策 19</p> <p>広域連携等による効率的な事業の検討に関する意見</p>	16	<p>広域化は民間業者が参入しやすくなり、地元の水源の活用よりも遠方の水源や大型ダムの利用を優先するという状況が他の自治体で見られる。六十谷の水管橋崩落による水道事業の脆弱さを改善するには、広域化よりもまず市民の声を吸い上げ、安全で安心な水道環境を創り出せるよう自治体職員の増員・強化を図る必要があると考える。</p>	<p>広域化については、国や県が、経営基盤の強化として推奨しています。</p> <p>企業局としても調査・研究は行ないませんが、経営の一体化などは将来的なものであり、まずは、緊急時連絡管などの発展的な広域連携の検討を進めます。</p> <p>民営化について、水道事業にはコンセッション方式というものがあります。しかし、これは民営化ではなく、水道事業者は自治体であり、水道水の供給責任も自治体にあるなかで、事業運営を民間が行うものです。現在、水道事業では宮城県でのみ行われています。</p> <p>なお、本ビジョンとしては、コンセッション方式を目指しているものではなく、今までと変わることなく、企業局が主体性を持ちつつ、民間の技術力なども活用した効率的な事業運営に取り組みます。</p>
		<p>「広域連携等による効率的な事業の検討」では、責任の所在とリスクアセスメントを確実に。</p> <p>効率化だけを検討することに反対する。先日の能登半島地震のように水道が寸断されると一刻も早く復旧しなくてはならない。こんな時、人材がないでは済まされない。市民の命がかかっている。大地震では広域連携しているすべての市町村に被害が及んでいるから相互応援ができない。</p>	
		<p>能登の地震で水道管の破損が広域におこっている。広域化の害悪でしょう。地域がせまければ復旧も早くなる様におもわれます。もし、能登の水道が民営化していたら復旧はどうなるのでしょうか。</p>	
		<p>民営化は反対。私の故郷ともいえる北陸地方を襲った能登半島地震から1ヵ月経とうとする現在でも断水している地域がある。南海地震が予測される私達和歌山市民にとっても、長期の断水は他人事とは思えない。</p> <p>生活していく上で絶対に欠かせない水、今私達が安心して使用出来ているのは、水質検査、安定した供給（価格においても）、緊急時や大規模災害時の迅速な対応によるものであり、もし今後水道事業が広域化・民営化となり、これらの1つでも欠けたら市民の命の水は無くなってしまふ。</p>	
<p>私は北部新浄水場建設（2022年バプコメ）には慎重で、賛成しなかった。この建設により水道料金の値上げ幅が一層上がることは確実。その値上げを緩和するために官民連携、いわゆる民営化を検討するとしたら強く反対する。能登半島地震など、ほぼ毎年、日本のどこかで大規模災害が発生しており、こういう時代こそ、各自自治体が責任を持って直営し、緊急時に対応できる体制（臨時増員を含む）を準備しておくことが大事である。和歌山市は他の小規模自治体と違い、現状でも十分な広さと人口を有している。広域化するニーズはあるとは思えない。むしろ必要なのは将来に向けて人口を増やすような取り組みや産業誘致だろう。</p>			

<p>施策 19</p> <p>広域連携等による効率的な事業の検討に関する意見</p>	<p>16</p>	<p>国や県の方針は水道事業の広域化。広域化のめざすところは「効率化」。さらなる人員の削減がおこなわれ、地域独自のニーズにこたえるきめ細かな水道事業は難しくなるでしょう。行きつく先は民営化になると思われる。世界でも日本でも民営化していたところが公営化に戻した事例を聞く。公営でこそ安全安心な水の提供ができる。利益優先の民間企業にまかせないで。</p>	<p>広域化については、国や県が、経営基盤の強化として推奨しています。</p> <p>企業局としても調査・研究は行ないませんが、経営の一体化などは将来的なものであり、まずは、緊急時連絡管などの発展的な広域連携の検討を進めます。</p> <p>民営化について、水道事業にはコンセッション方式というものがあります。しかし、これは民営化ではなく、水道事業者は自治体であり、水道水の供給責任も自治体にあるなかで、事業運営を民間が行うものです。現在、水道事業では宮城県でのみ行われています。</p> <p>なお、本ビジョンとしては、コンセッション方式を目指しているものではなく、今までと変わることなく、企業局が主体性を持ちつつ、民間の技術力なども活用した効率的な事業運営に取り組みます。</p>
		<p>「広域化」を国や県が推進してるが、うのみにせず、市民で考えたい。</p>	
		<p>水、エネルギーなどライフラインは広域で利追求の観点はさけ、小規模単位に自然条件を生かすべきである。ライフラインは公営で、職員の専門制を継続した技術者を確保するために市役所は頑張るべきである。</p> <p>和歌山市は大滝ダム、公共下水道に多額の経費が必要なため経営的に苦しい時期である。国の方向が国民の目線から外れるが、上下水道の技術面に思い切った予算をまわす様、地方自治体から声を上げていきましょう。</p>	
		<p>和歌山市の水道については、民間委託でなく、市直営体制を今後も堅持されたい。</p> <p>広域体制でなく、和歌山市直営を堅持していただきたい。</p>	
		<p>水、土地、日本は、外国人にわたしてはならないと思うし、間違い。広域化に反対する。</p>	
		<p>水道を広域化しないでほしい。自治体が直営するからこそコストの精査ができ、経営内容のチェックが可能である。</p>	
		<p>効率だけを考えて安易に広域化をすすめるなどせず、市として責任ある水道事業を進めていただきたいと考える。それによって多少の負担増があったとしても、安全な水道が守られるなら、しかたがないと考える。</p>	

<p>施策 19 広域連携等による効率的な事業の検討に関する意見</p>	<p>16</p>	<p>広域化され、標準化されたら、他の地域の問題が、和歌山市まで持ち込まれてしまう。どうか広域化はしないで。</p>	<p>広域化については、国や県が、経営基盤の強化として推奨しています。 企業局としても調査・研究は行ないませんが、経営の一体化などは将来的なものであり、まずは、緊急時連絡管などの発展的な広域連携の検討を進めます。 民営化について、水道事業にはコンセッション方式というものがありません。しかし、これは民営化ではなく、水道事業者は自治体であり、水道水の供給責任も自治体にあるなかで、事業運営を民間が行うものです。現在、水道事業では宮城県でのみ行われています。 なお、本ビジョンとしては、コンセッション方式を目指しているものではなく、今までと変わることなく、企業局が主体性を持ちつつ、民間の技術力なども活用した効率的な事業運営に取り組みます。</p>
		<p>人口が減少しているのに、今も郊外に宅地造成をしており、無駄な水道管理設が増加した。その結果、支出が増加している状況にある。広域化すれば益々支出は増える。したがって広域化に反対です。</p>	
		<p>広域化、民営化になってしまうと水質、料金、災害時やトラブルの対応、迅速さに不安を感じる。また企業が経営不振や倒産になった場合はどうなるのか。安全で安心した水を使用するために広域化、民営化には断固反対。</p>	
		<p>広域化に向かうことは、水管橋崩落の事故から学ぶべきこととは逆の方向性だと考える。また、水という人命・生活と深いところで結びついた重要な公共インフラが安全に維持されるためには、これまでのコスト優先から決別して、公共がしっかりと支える形に切り替えることが肝要と考える。</p>	
		<p>◆水道ビジョン 2024 に「官民連携」と書かれていることが気になり、水道民営化に続く道になるかもしれないと危惧する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・官民連携には PPP や PFI といった手法があるが、PFI の中には「PFI コンセッション」が含まれる。</li> <li>・PFI コンセッションは、いわゆる「民営化」と呼ばれるもので、所有権（リスク）は自治体で、運営権（利権）は企業という、民間企業にとっては喉から手が出るほど美味しい事業となる。</li> <li>・PPP（官民連携）モデルのひとつに、節約すればするほど、企業側が節約した分の半額を報酬として受け取れる契約がある。コスト削減で手取り早いのが人件費で、職員削減につながりトラブルのとき対応できない。</li> <li>・「官民連携」の PFI の中にコンセッション方式（いわゆる民営化）が含まれることを再確認したい。一度、官民連携が入り込んでしまうと、水道事業そのものが民間企業に移行してしまう懸念は大きい。</li> <li>・国鉄民営化や郵政民営化で住民サービスが低下したことを私たちは知っている。広域化から始まる民営化の心配は全くないと言うならば、誰の責任で、どの法律で、民営化に進むことがないのか、提示してほしい。</li> </ul>	

<p>施策 19 広域連携等による効率的な事業の検討に関する意見</p>	17	<p>民間活力を利用した新たな発注方式の導入によりとはどういう意味か。</p>	<p>民間活力を利用した発注方式については、PFI、DBO、指定管理者制度、民間委託など様々な手法があるため、調査や研究を行い、民間の技術力なども活用した効率的な事業運営に取り組みます。</p>
	18	<p>近隣地域との協力により設備の有効利用の可能性も検討する必要もあると思う、特に大規模災害に対しては和歌山市だけの対応は難しいと思う。</p>	<p>貴重なお意見として承ります。 今後の水道事業の参考とさせていただきます。</p>
		<p>水道料金の値上げは時世を考えれば仕方ないかと思いますが、世帯の人数に応じた単価設定をお願いします。電気なら当たり前使用前に使用量に合ったプランを選べます。なるべく節約していても、子どもの多い世帯は水を使う機会はどうしても多くなります。</p> <p>一市ではそういったことにコストを掛けることも難しいと思うから、水道事業の広域化をお願いします。県単位でも難しいし、関西広域でやった方がいいのではないか。</p> <p>河北もどんどん人口が減っていくでしょうに、せっかく浄水場造るのであれば、和泉山脈ぶち抜いて、淀川から長い水道管引いている泉南地域に水売ればいいじゃないか。県全体でみれば、道路のトンネルいっぱいぶち抜いているのだから、一緒に水道管も府県境跨いで繋げばいいのと思う。</p>	
		<p>緊急時連絡管は、岩出市と設置済みだが、紀の川市、海南市、岬町とは未だ出来ていないようなので、令和 10 年度までと期限をもって進めていただきたい。</p>	



<p>施策 20</p> <p>適切な組織体制と人材確保・育成の推進に関する意見</p>	<p>19</p>	<p>先の水道橋崩落や花山の水道管破損事故などは、人員削減の結果だと思う。人員の確保と技術の継承をお願いします。</p>	<p>職員数につきましては、中核市の平均職員数を見据えながら、経営の健全化に向けた取り組みの一環として、業務の外部委託や組織再編、人員配置の見直しなどにより適正化を進めてきました。</p> <p>今後も、事業の進捗や施策方針等により必要な人員・人材を見極めながら、若い世代の職員を含めた人材確保に努めるとともに、技術の継承を図っていきます。</p>
		<p>人材確保は和歌山市としてお金を出して若い技術者等を雇用するべきである（独立採算などと言わずに）。</p>	
		<p>本ビジョン 3-5 に、問題点として職員の高齢化が挙げられていたが、それは近年の新規採用がない、つまり職員数が実質削減されつつあるということか？ それは将来、一部機能の外部委託、さらには民営化を目指していることの現れではないか！？これは由々しき事態である。定員削減を直ちにやめ（必要なら増員し）、技術や知識と知恵の継承を確保すべきである。</p>	
		<p>◆職員を早急に増やしてほしい。大量退職の時代が来る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20代職員は事務系1人、技術系3人で、驚くほど若い世代が少ない。</li> <li>・スキルアップで職員数削減はカバーできず、職員の負担が増えるだけ。</li> <li>・能登半島地震で水道復旧のための職員数が少ないことが大きな問題となった。</li> </ul> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経験があるなら中途採用でもいいのでは？（正規雇用で）</li> <li>・職員数削減で民間企業に頼らざるを得なくなり、民営化への道に確実につながる。</li> </ul>	
<p>その他の意見</p>	<p>20</p>	<p>兵庫県では耐震性貯水槽が点々とあるそうだが、和歌山には設置できないか。</p>	<p>和歌山市には4箇所の耐震性貯水槽があり、地震が起きれば、緊急遮断弁が閉まり飲料水を貯め、臨時の応急給水所として利用することができます。現在、西庄公園、園部公園、高津公園、紀和駅前公園に設置しています。</p>
	<p>21</p>	<p>パブコメの募集が31日なのに、30日に協議会をもち、料金の値上げを決めるというのは、水道事業がどうのこうのというよりも、パブリックコメントの意味があるのかと疑問に思う。パブリックコメントの結果をまとめてから、水道料金の値上げなど、重要な事を決めるべきだと思う。</p> <p>◆災害対策のために、各事業の順番を考え直してほしい。</p> <p>運営経費の問題はあるかと思うが、特定の浄水場への集中化よりも、リスク分散を優先していただきたいと思う。</p> <p>和歌山市水道ビジョン（素案）について、意見募集の為の説明会をするべきではないか。</p>	<p>貴重なお意見として承ります。今後の水道事業の参考とさせていただきます。</p>

<p>その他 の意見</p>	<p>21</p>	<p>住民からの意見聴取をパブコメに限定することなく、説明会を開催して丁寧に分かりやすく情報を提供し、合意を積み重ねることを要望する。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。 今後の水道事業の参考とさせていただきます。</p>
		<p>◆企業局と市民が学習会を開いて水道について学ぶ場を持つことが、水道事業を守る手立てになると考える。</p>	
		<p>低収入家庭への非課税制度のようなことが水道でもできないか。</p>	
		<p>広域化と同様に官民連携とDX化についても具体的な方針を示して頂くことを求める。</p>	
		<p>水道局事務のDX化推進の遅れが指摘されると思う。</p>	
		<p>上下水道を別個のものとするのではなく、双方をセットで考えての合理化・サステイナブル化を進めるべきではないか？</p>	
		<p>震災時の飲料水等の緊急搬送ルートを決め、そのルートの耐震化、液状化防止対策も必要ではないか。</p>	
		<p>宅地につながる民間業者が造成した土地に施設されるは企業局負担ではないか。</p>	
		<p>世帯数の変化を注視しながら水需要予測を行うことが必要。</p>	
		<p>井戸の活用と、水源地・水源林の保全についても取り組んでもらいたい。山林破壊や農地の宅地化をやめ、持続可能な社会を目指すべきだと思う。</p>	
		<p>◆業務委託をこれ以上増やさないこと。</p>	
		<p>市民の意見を吸収してもらうためにも、年末年始をさけたパブコメの実施や方法を検討して欲しい。</p>	
<p>加納のような低い場所から取水するのではなくもっと上流の粉河以北ぐらいから引く計画が必要。50年～60年掛けても施工すべき、早く実行したら子孫への負担が少なくて済む。</p>			

<p>その他 の意見</p>	<p>21</p>	<p>何事も老朽化で済ませないで下さい、新調で楽に済むけど、我々にまっているのは値上げ。          水は命、能登半島の災害でも雨水で助かったと言われている。大事な事は我々にも署名させてもらいたい。          もう少し税金を（我々の汗と苦勞を）大切に。決断を自分達でしないでほしい。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。          今後の水道事業の参考とさせていただきます。</p>
		<p>民営化しても政策が良くなるとは思えない。大阪府に長らく住んでいたが、水質が最近向上し、ありがたかった。高石市と泉大津市に住んでいたが、調べて事業のお手本にしてもらいたい。</p>	
		<p>今もカワウがとまっている。水道料金が上がる分しっかり管理していただきたい。</p>	